

研究課題名	EPDS(エジンバラ産後うつ病質問票 : Edinburgh Postnatal Depression Scale) を用いた産褥うつに対する加味帰脾湯の効果に関する研究
研究の意義・目的	産後うつ病は自殺など周産期死亡の原因となるだけでなく、母子心中や乳児虐待、愛着障害など母児の関係にも大きな影響を与えるとされています。産後うつ病の評価として一般的に EPDS が用いられており、産後うつ病ハイリスクと診断された産褥婦は助産師・保健師による生活や育児のフォローアップや症状に応じて精神科へ紹介することが考慮されますが、産褥婦の精神科受診への抵抗感や授乳の影響で投薬治療が行えないなどの問題点があります。産後うつ病ハイリスクの産褥婦に対する加味帰脾湯投与群と非投与群の EPDS の点数及び血液検査等について比較を行い、加味帰脾湯の効果を明らかにすることを目的としています。
研究を行う期間	「研究機関の長の研究実施許可日」～2028年12月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2021年1月以降に大阪公立大学医学部附属病院(旧：大阪市立大学医学部附属病院)の産婦人科で分娩を行った方で、産後3日目・2週間・1か月に EPDS を算出した方・加味帰脾湯を内服された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 患者基本情報：年齢、身長、体重 周産期事象：妊娠回数、妊娠方法、周産期合併症 周術期情報：分娩方法、分娩週数、出血量、血液検査所見(ヘモグロビン値) EPDS(産後3日目、2週間、1か月) 新生児情報：出生体重、Apgar score、NICU(新生児集中治療室)入院の有無
試料・情報を利用する者の範囲	この研究は大阪公立大学医学部附属病院産婦人科のみで行います。
試料・情報の管理について責任を有する者の研究機関の名称	公立大学法人大阪 大阪公立大学医学部附属病院
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 女性生涯医学 (担当者氏名) 栗原 康 電話番号 : (06) 6645 - 3862 メールアドレス : gr-med-obandg@omu.ac.jp